

会 議 記 録

会議名称	平成 26 年度第 4 回 杉並区立図書館協議会
日 時	平成 27 年 1 月 24 日（土）午後 3 時 03 分～午後 4 時 32 分
場 所	中央図書館 地下 1 階 視聴覚ホール
出席者	委員 中島、竹田、原田、石橋、高野、川田、澁川 区側 中央図書館長、管理係長、企画運営係長、情報化担当係長、 資料相談係長、事業係長、管理係主査、高円寺図書館長、永福図書館長、 宮前図書館長、成田図書館長、阿佐谷図書館長、高井戸図書館長、 方南図書館長、下井草図書館長、今川図書館長
配付資料	資料 1 平成 25 年度杉並区立図書館サービス評価 －経営評価委員会報告書〔最終案〕－ 資料 2 高円寺駅前図書サービスコーナー臨時窓口の運営状況について 資料 3 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス運用開始について 資料 4 朗読（音訳）者養成講座（初級）の実施について
会議次第	1 開会 2 議題 【報告事項】 (1) 杉並区立図書館サービス評価【経営評価委員会最終報告】 (2) 高円寺駅前図書サービスコーナー臨時窓口の運営状況について (3) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス運用開始について (4) 朗読（音訳）者養成講座（初級）の実施について (5) その他 3 閉会

○中央図書館長 それでは、時間になりましたので、始めさせていただきます。きょうは次長は休んでおりますので、館長が進行をやらせていただきます。よろしくをお願いします。

きょうの協議会でございますけども、前回11月29日の第3回協議会で、経営評価委員会の中間報告をいただきまして、その後、皆さんからご意見、要望等があれば、事務局のほうへ連絡をいただきたいということでしたが、1件もございませんでしたので、事務局と会長とで若干の修正等を行いまして、委員会の最終案ということで席上に配付させていただきました。

ほかに報告が3件ございますが、そのあと時間が残れば各地域館の館長から、今年度の取り組みやそれぞれ特色のあった出来事など、2分間ぐらいで報告してもらおう予定です。

委員の皆様方には平成25年5月から、任期が2年ということでいろいろご協力をお願いいたしましたが、きょうのこの会がそういう意味では最終回になるのかなと思ってございます。本当にありがとうございます。本日の協議会の終わりに当たりましては、会長から一言ご挨拶をお願いしたいと思ってございます。

それでは、会長、進行のほうをお願いします。

○会長 それでは、議事に入ります。本日は報告事項が4件です。

◆ 杉並区立図書館サービス評価【経営評価委員会最終報告】について

(報告事項第1。資料①)

○経営評価委員長 この報告は経営評価委員会を代表して私が行います。

《以下はこのことにかかわる質疑や意見交換を含めて要約》

(1) 経営評価委員会報告書〔最終案〕の概要

①第3回協議会で提案した中間報告案に対して会議終了後、評点・評価ともに「厳しすぎる」との意見があった。これに対して評価委員会での申し合わせを説明した。すなわち「図書館サービス基本方針に基づく新方式による最初の評価なので、『誉め殺し』的見解を極力避ける」。

②最終報告案は、①の意見を加味して文言の表現を変更。また「はじめに」と「おわりに」を加えるなど、文書としての体裁を整えた。

③最終報告案では、中間報告案に添付した三つの資料に加え、評価委員全員の評価を一括した集計表を提出した。ただし大変大部な資料なのでプリントアウトせず、エクセルのデータを添付することとした。

(2) 字句・表現・文書形式にかかわる修正について

①誤字脱字・誤転換の修正。

②添付資料の不明瞭な注記などの修正、または削除。

③文章表現および用語の修正。

・【例】「原評価は、平成25年度各館取組目標を各項目に複数挙げ、それぞれを評価している」はわかりにくいので、「委員会評価は、項目ごとに単一評価するため、原評価を調整した」に変更。

・【例】「ノウハウの分散協調」を「ノウハウの共有化」に変更。

④「ヤングアダルト」への対応にかかわる議論。

「その独特の心性を配慮して企画すべき」の文言に関して、たとえば催し物であればイベントについての具体的なイメージはあるかが議論になった。各館の取り組みの報告とそれに対する自己評価から読み取るならばおそらく現場で明確ではないという懸念がある。問題は、「ヤングアダルト」と呼ばれている利用者グループのセグメンテーションをしっかりとって、そのグループの特性（関心・嗜好など）を明確に把握して必要な対応を検討すべきで、しなければならないのはYA（ヤングアダルト）コーナーの設置など施設の整備だけではないはず、などなどの意見交換が行われた。

(3) 指摘されたその他の問題・課題等について

①年間事業計画の記載をさらに工夫すべき。

評価原票である「自己評価表」は、当該年度の事業計画表から起こされるが、それには一つの計画項目に複数の取り組みが記載されることがあり、それがそのまま評価原票に書き写されてそれぞれの取り組みに評点A・B・C・Dが付与される。その場合にたとえば[取組㉗：B、㉘：C、㉙：D、㉚：A]などのように一項目の複数の取り組み間で評点のばらつきが発生する可能性があるが、評価委員はその状況下での的確な評点が難しい。事業計画段階で優先取り組み順位を付与するなどの工夫が必要。

②評価作業の効率化を図る工夫も必要。

端的にいつて今回の評価作業は、各委員の実作業で1ヶ月、そして報告書作成（委員長）にさらに1ヶ月要している。またこの間各委員の精神的プレッシャーも大きい。また委員会評価の前段階で各館長等も同等の時間と労力を費やしている。経営評価は原則的には毎年行われることになるが、「対時間・労力効果」（かけた時間・労力に対してどのくらい効果があるか）を見極めつつ効率的な作業方式を検討することが強く求められる。

③「図書館経営評価」の視点を保持することが重要。

今回の経営評価委員会最終報告の標題を「図書館サービス評価」とすることは問題ないにしても、図書館側の自己評価と委員会評価においては、たとえば事業の費用対効果、セキュリティ、コンプライアンスなどの経営的観点にも十分に留意すべきである。

○経営評価委員長 以上の検討をふまえて、今年度経営評価委員長から「平成25年度杉並区立図書館サービス評価－経営評価委員会報告書〔最終案〕」の承認を求めます。

〈承認〉

○会長 承認が得られたので、最終報告書を中央図書館長に提出します。最終文案は以上の審議をふまえて図書館事務局に資料の調整を含めてゆだねますが、この報告書の今後の取扱いについて館長に説明していただきます。

○中央図書館長 最終報告をたしかに頂戴いたしました。評価委員の皆様ありがとうございました。提出された最終報告書（資料①）の案文を本日の協議をふまえて、事務局で修正しますが、それについては今後会長と相談の上作業を進めます。修正報告書は、年度内に「平成25年度図書館経営評価報告書」としてとりまとめ、慣例にしたがい関係各所に提出することになります。なお同報告書には「サービス評価報告書」の他に、図書館事業にかかわる統計表、利用者満足度調査結果報告書、経営評価原票「自己評価表」が含まれます。したがって非常に大部になりますので、一般公開については今後改めて検討します。

○会長 ありがとうございました。それでは次の報告事項にはいります。第2、第3、第4を一括して報告願います。

◆高円寺駅前図書サービスコーナー臨時窓口の運営状況について

(報告事項第 2。資料②)

○中央図書館長 区の高円寺駅前事務所が昨年末に廃止されました。そこには今後図書館サービスコーナーと保育園が設置されます。そのことは前回の協議会でも報告しましたが、施設工事期間中の臨時の窓口を次のように設置しました。設置場所は高円寺北区民集会所です。その1階にサービスコーナーが開設されました。高円寺駅前事務所がリニューアルオープンする5月下旬までこの臨時窓口が稼働します。稼働日時は、月曜から土曜日までが午前9時から午後8時まで。日曜と祝日は午前9時から午後5時までです。なお区民集会所が休みとなる第2・第4月曜日、中央館休館日の第3木曜日は業務の取扱はありません。取扱の業務は、予約資料の貸出と返却です。また返却は、時間外の場合は返却ポストを配置します。

これまでの利用状況を報告しますと1月5日からスタートし、最初の7日間の状況で、利用者の合計が638人で、1日平均すると91人です。ちなみに高円寺駅前事務所では平均130人から150人でした。なお貸出冊数の合計は1,637冊で、1日平均が234冊。返却は2,003冊で、1日平均で286冊です。また第二週目の7日間では利用が若干増えています。

◆ 国立国会図書館デジタル化資料送信サービス運用開始について

(報告事項第 3。資料③)

○中央図書館長 国立国会図書館所蔵資料のうち、明治期から昭和43年までに受け入れた図書、明治期から平成12年までに刊行された雑誌で商業出版されていないもの、平成3年から平成12年度までに受け入れた博士論文で商業出版されていないものなどがデジタル化されており、それらのオンラインでの閲覧が一般の図書館経由できるようになっています。このことは以前の協議会で報告しましたが、区立図書館でもそのサービスを受けることができるようになりました。3月から利用者向けにこれを実施する予定で、今後職員用のマニュアルを作成する予定です。

現在、東京都内では12の自治体でこのサービスを開始しています。閲覧だけでなく複写もサービスに含めていますが、杉並と品川と北区の場合は

閲覧のみになっています。

○委員 杉並区でのサービスは閲覧のみとのことですが…

○資料相談係長 本来は、必要な複写機を設置して申請するんですが、それが設置できなかつたので、今回は閲覧のみということで…。ほかにいまデータベースサービスもプリントアウトする環境が整っていないのです。

○委員 画面で閲覧するだけなのですか。

○資料相談係長 今後考えなければならぬとは思っていますが。

○委員 都内では12館のうち杉並と品川と北区以外の9館は複写できるんですよね。

○委員 そうすると中野の図書館に行ったほうが…

○会長 データベースサービスで必要な情報がプリントアウトできないというのは中途半端です。国立国会図書館デジタル化資料についてはあまり需要はないかもしれないが、その便宜供与を杉並の利用者にするのであれば、コストパフォーマンスを含めて実施すべきでしょう。まして新聞などのデータベース等の利用を考えるとこれはちょっと真剣に考えるべきですね。

◆ 朗読（音訳）者養成講座（初級）の実施について
（報告事項第4。資料④）

○中央図書館長 朗読は、視覚障害者であるなしにかかわらず、本の内容を読み上げることで、最近ボランティア活動などでよく行われています。ここで言う「朗読（音訳）」は、視覚障害をもっている人たちに本に書かれている文章を明確に読んで本の内容を正確に伝えることが中心ですが、たとえば図版が掲載されているならばそれが写真か挿絵か、白黒かカラーかなど、本から引き出せるあらゆる情報を伝えることを含めてのサービスです。ですからいわば専門的な技能が必要なわけですが、高齢化などの理由でこのところそういう人材が少なくなってきました。そこでそのための初級の講習を開催することになり、参加者（対象者60歳未満）を募集（10月1日から20日）しました。定員は15名でしたが75名の応募があり、音声テストなどを経て、20名の受講者を決定し第1回目を開催しました。この講習会は12回（1月16日-4月24日）まで行われます。

○会長 音読の初級ということですが、初級、中級、上級と進むわけですか。
○事業係長 いいえ、そういう意味での初級ではなく、「入門」講座、あるいは、「初心者向け」ということです。ですから、たとえば難読な漢字はなんで調べるかとか、グラフはこういうふうに説明していくとか、そういうことで、カルチャーセンターなどで行われる初級の内容を今回やることにいたしました。

なお、音訳ボランティア養成講座は平成24年にも実施しています。そのときは、地域の大学と協働で行ったボランティア養成講座を卒業した方と、実際に音訳をやりたいということでボランティアグループに入ってやっていただいていた方などを対象にして実施しました。今回は、広報で募集して、改めて入門講座の資格というか、適性があるかどうか適性テストを実施して講座を開いたのですが、そういう形で実施したのは、ほぼ10年ぶりぐらいとなります。これからも何年か置きに実施していく予定です。

◆ その他各館の事業報告

《第3回図書館協議会での上半期事業報告と重複するものがある》

○中央図書館事業係長

- ・図書館振興財団が主催する全国調べる学習コンクールにおいて久我山小学校の一人の生徒の作品（「鬼のナゾをさぐれ！」）が優秀賞に選ばれた。

○高円寺図書館長

- ・児童読書活動推進の関連で読書チャレンジを初めて実施。

○永福図書館長

- ・向陽中学校生徒の推薦本ブックリストの発行。
- ・児童館ブックトーク（月に2回）と「大人のためのブックトーク」講座（2回）を開催。

○宮前図書館長

- ・古典文学講座（貝瀬弘子講師）の実施。
- ・地域のケア24久我山との共催で医療、家庭介護、高齢者向けの介護の講座を実施。
- ・宮前防災会ほかの団体との協働の防災フェスタで防災に関する映画会開催。

- ・地域の絵本作家のスギヤマカナヨさんの原画展とワークショップ開催。

○成田図書館長

- ・窓口研修やレファレンス研修など職員研修を毎月館内で実施。
- ・近隣の中学校と連携で、成田図書館ツアー、選書ツアーなどを実施。
- ・中高齢者向け健康関連（ウォーキング、転倒予防、猫背矯正）連続講座の実施。
- ・利用者端末機の活用講習会の実施。

○阿佐谷図書館長

- ・「あさがや楽」（第2号）発行予定（2月11日）、第1号は好評で現在1300冊配布（2000部印刷）。内容は阿佐ヶ谷・荻窪界隈の児童文学者や作曲家、作詞家を取り上げる。

○下井草図書館長

- ・利用者満足度調査で職員の対応が向上。（平成24年12月65.6%、25年12月62.3%、26年12月76%）
- ・スタンプラリーの景品として手づくりの「しもいちくん」缶バッジを作り、子供たちにあげたところ、大変喜ばれた。

○高井戸図書館長

- ・高井戸中学校=高井戸図書館渡り廊下開放後、高井戸中学校の図書室の開放を試行。この間、同中学校の昔の写真の展示があり、同校を卒業した利用者から好評を得た。

○方南図書館長

・職員が推薦する本を詰めた「おたのしみ読書バッグ」（本の福袋）の貸出。職員がお勧めする本を各自2冊選び、タイトルは伏せてその推薦文だけを切り抜いた葉っぱに記載し、館内のボードに貼りだす。利用者はその推薦文を読んで気に入った葉を剥がしてカウンターへ持参すると、エコバックに入った該当書本借りることができる、何の本なのかは中を見るまでわからない、という本の福袋を実施しました。

春に企画し、8月から準備をはじめました。推薦図書は各自に任せたところ結果として一般書28冊、児童書12冊（内3冊YA）と丁度良い配分になりました。一般書は黄色の葉っぱに、児童とYAはオレンジの葉っぱと色分けしてわかりや

すくし、児童書の推薦文には対象年齢も明記しました。館内の大きなボードに樹木の形を作り、そこに全部で40枚の黄色とオレンジの葉っぱを付けて色づいた木としました。

一方保存期限切れの英字新聞で各自 2 つエコバッグを作り、貸出時にはそのバッグの中で本のバーコードを読み取り、貸出済になるまで本のタイトルはわからないように工夫いたしました。

初めての試みでしたが大変好評で、1 週間で全部の本が貸出され、またいつの間にか「東京図書館制覇！」のホームページでも紹介されておりました。

この企画は職員は様々な本を読まねば推薦本を選べませんし、文章を書く力も必要になりますし、また、利用者の方にも喜んでいただけました。また来年もやってほしいとお声もいただいております。

図書館と利用者双方にとって良い企画であったと思っておりますので、来年度は更にレベルアップしたものを提供していきたいと思っております。

○今川図書館長

- ・杉並区の郷土史会の会長に講師を依頼して歴史講演会を開催し、好評。今回は3回目で、テーマは今川周辺の文化財など。
- ・ゆうゆう館との共催事業でお正月遊びとお抹茶体験を実施。

◆ 協議会委員任期の終了について

○中央図書館長 ありがとうございます。ところで今年度の協議会は今回で最後です。また協議会委員の皆様の任期も4月末日で終了します。この2年間、大変ありがとうございました。

《以上は、会長編集の協議会記録》